

第134回 関西大学メディア懇談会（Web開催） 実施概要

1 日時 2020年12月2日（水）15:00～16:15

2 場所 オンライン形式（Zoom ウェビナー）

3 内容

(1) 研究発表（15:05～15:35）

発表者：神谷 拓（人間健康学部教授）

テーマ：コロナに立ち向かう令和スタイルの部活動実践

ー生徒が切り開く「クラブ自治」の世界ー

P1～10

(2) 学内状況の説明（15:35～16:10）

① 2021年度入試のBCPについて

P11

② コロナ禍での家計急変者を支援。第3弾緊急給付奨学金を募集

P12

③ 「100円夕食」をはじめとする学生の“食”支援の取り組み

P13

④ 3万人の学生アンケートから見えたオンライン授業に対する本音

P14～22

⑤ 東京センター×SUCCESS-Osaka 公開講座「共創時代に必要な人材の獲得と育成」を開催
～「外国人留学生の活用」、「脱 OJT ジョブ型インターンシップ」等をキーワードに

P23～24

(3) 意見交換・質疑応答（16:10～）

・テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。（音声およびQ&Aいずれでも可）

※質疑応答の時間外においても、Q&A機能を使っての質問は随時受け付けます。

→時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学側出席者

前田裕学長、青田浩幸副学長、佐々木保幸学長補佐、神谷拓教授（人間健康学部）、
井村誠入試事務局長、山田剛史教授（教育推進部）、松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、
増井勝也学長室次長、植田光雄学長課長、依藤康正広報課長、西川武志広報課副主幹 他

以上

【次回のメディア懇談会（第135回）について】

2021年1月下旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

コロナに立ち向かう令和スタイルの部活動実践 －生徒が切り開く「クラブ自治」の世界－

人間健康学部 神谷拓

【概要】

およそ 100 年の歴史を持つ日本の部活動が、今、転換期を迎えています。

部活動は課外活動であるため、教師の労働として明確に位置づけられておらず、教師の善意によって成立してきました。しかし、働き方改革の議論を背景に、教師の労働時間の見直しが進み、持続可能な部活動のあり方が問われています。あるいは、過去から続く暴力や暴言による指導の問題も、相変わらず見受けられます。このような状況を「ブラック部活」と呼ぶ人もいます。

一方で、部活動のような主体的な活動こそが、先行きが不透明な社会において重要だという問題意識から、積極的に推進する動向も見受けられます。コロナ禍においても、多くの自治体で全国大会の「代替大会」が企画され、ICTなどを活用して安全な練習方法が模索されてきました。大学入試においても、競技成績（活動の結果）だけでなく、活動のプロセスにまで視野を広げて評価することが求められています。

このような状況下、私は学校の部活動を生徒主体の自治集団活動として位置づけ、運営していくことをめざしてきました。そもそもクラブの語源には「自治」や「社交」といった意味が含まれており、そういった組織的な活動を基盤にして、これまで様々なスポーツや芸術が生み出されてきました。今日の部活動も、このようなクラブ史の延長に位置づけ、生徒が集まって、自分達で課題を解決していくことが何よりも大切であると考えます。

私は、そのような部活動を実現するために、日々の運営で生じる課題を 21 項目に整理したワークシートをつくり、生徒による解決を励ましてきました。その成果については、既に日本部活動学会において報告しており「神谷メソッド」とも呼ばれています。「神谷メソッド」は、各自治体や体育・スポーツ団体の研修において取り上げられ、現在も実践研究が進められています。また、昨年度には、ベネッセ・コーポレーションと協力して、ワークシートへの記入や、部活動の自治を励ます映像コンテンツを作成しました。同時に、学校教育における ICT 活用をサポートする企業・Classi と協力して、部活動における自治集団活動の経験を、文書や画像の資料として蓄積していくシステム（ポートフォリオ）についても実践研究を進めています。

このようにして、大学の研究者、中、高等学校の教師、各地域の教育委員会、そして企業が連携して、ワークシートや ICT を活用しながら生徒の自治をサポートしていく「令和スタイル」の部活動こそが、教師の働き方改革や、持続可能な部活動を実現していくアプローチだと確信しています。同時に、この取り組みは、ソーシャル・ディスタンスが求められ、人と人との関係が希薄になりがちな状況において、クラブ・部活動の持つ「自治」や「社交」といった特徴を、今日に相応しい形で発展させていく挑戦でもあります。

【プロフィール】（詳細は、ホームページをご参照下さい）

1975 年埼玉県生まれ。関西大学人間健康学部教授。専門は、体育科教育学、スポーツ教育学、運動部活動の教育学。筑波大学大学院人間総合科学研究科にて、博士（教育学）の学位を得る。岐阜経済大学、宮城教育大学を経て現職。現在は日本部活動学会会長。運動部活動に関わる講演を全国で展開中。

<MAIL> tkamiya@kansai-u.ac.jp

<HP> <https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/kamiya/>

